



石崎たか子議員

市民の願う行政の遂行を

問 市民から寄せられる意見や苦情は、総合斎苑とバス運行の2点が一番多く上げられている。総合斎苑の使い勝手が悪いと言われているが改善は、式場ホールでの湯茶などのサービスや、それに利用するテーブルは用意出来ないか。また、現在の利用率は。

市民生活部長 市が貸すのはセレモニーホールで、湯茶などのサービスは、実施出来る事になっており、喪主と葬祭業者との契約で行われている。平成26年度の火葬数は639件。式場利用数は、206件である。セレモニーホール利用率は32.2%だ。

問 バス運行は、巡回バス運行検討委員会19名に努力していただいているが、今回の改訂は市民の身に添っていないと聞く。地元には地元の理由がある。一回目に戻してほしいが。

市長 全ての方に満足という事は、なかなか難しい。理解をいただきたい。

問 市政10周年を区切りとして、成人式や敬老会納涼まつりを、おのおの1つに行えないか。成人式は親水公園の体育館で一同が集まれば、市民としての絆や連帯感が持てると思うが。

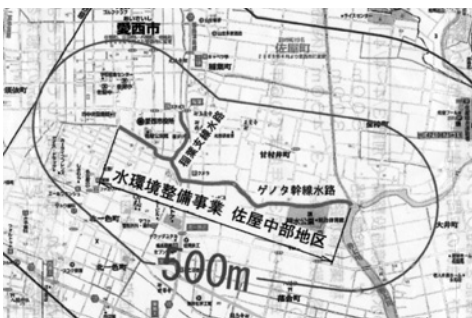
福祉部長 一同が集まる考えも理解できるが、今まで通り2カ所を継続したい。

水環境整備事業「佐屋中部」の推進は

問 27年度から32年度までの予定で、農林水産省は自然や社会の特色を踏まえた水環境事業を進めるため、佐屋中部地区「ゲノタ幹線水路」の整備が進められている。県道富島・津島線の横断が気になるが、どんな安全が図られるか。できれば信号の設置を願いたい。

経済建設部長

県道横断部分は、現状のまま利用になる予定。今後、市として安全確保のため、信号設置も含め関係機関との協議を進めよう。



▲水環境整備事業の計画図



近藤 武議員

災害に負けないまちづくりを

問 現在に至る消防団員の経緯は。

消防長 合併後の平成18年度愛西市消防研究会での審議により、1小学校区で1分団を基本とし、地域の特性による増強もあわせて市内全域を17地区に区割りし団員数は385名となった。

問 今年度も消防団員の欠員が出ているが、行政としての新たな取り組みは。

消防長 広報誌やホームページで消防団活動を紹介したり、市内で開催される各種イベント時に消防団員募集のパンフレットを配布している。ほかに、新規事業として愛西市消防団応援事業所設置要綱を制定し、応援してもらえる市内の事業所を登録し、消防団への応援をもらうことともに団員確保にもつなげていき、地域の活性化と防災力の向上を図っていききたい。

問 団員構成として女性消防団員は。

消防長 市では男女問わず入団することは可能